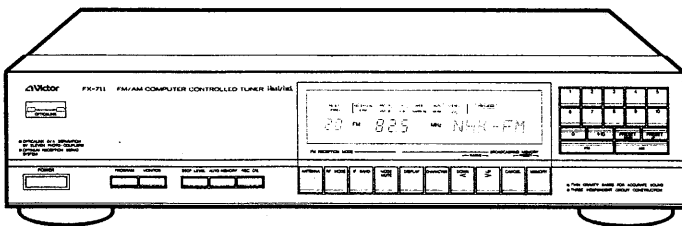


FX-711

コンピューターコントロール プログラマブル チューナー 取扱説明書

COMPU LINK
Component



目次

特長	1
保証とアフターサービス	1
ご注意	
安全上の注意	2
取り扱い上の注意	2
接続のしかた	3
主要部分の名称および働き	5
ディスプレイ（表示）	11
アンテナについて	12
放送を聞くには	13
プリセットのしかた	14
ブロードキャスティング・メモリーの使いかた	15
オートメモリーのしかた	16
ストップレベルの使いかた	17
プリセット・チャンネルの取り消し	17
プリセット・スキャンのしかた	18
録音をするには	19
故障？ と思う前に	22
仕様	裏表紙
寸法図	裏表紙

—お買いあげありがとうございます—

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。

特長

■ FM/AM ランダム20局プリセット

各放送をワンタッチで選局できます。

■ レセプションサーボ

電波の状態に応じて自動的に最適受信モードを選びます。

■ オプティカリンク

光伝送により、ノイズ等の悪影響を大幅に減少させています。

■ ブロードキャスティングメモリー

放送局名やメッセージなどを6文字以内で全てのプリセットにメモリーできます。

■ ツインベース

電源下部、FM 高周波回路下部に鉄板を配し、外来振動による音質への影響を排除しています。

■ QSC 回路

FMステレオ放送の電波が弱いときのノイズを抑えます。

■ プログラムレコーディング機能

8種類のプリセット局が番組予約できます。

■ FM/AM デジタル電界強度表示

電波の強さを数字で表示します。

■ オートスキャン、オートメモリー

選局、プリセットが簡単にできます。

■ コンピュリンク対応

コンピュリンク対応した当社のアンプと組み合わせますと、連係プレイが楽しめます。

COMPU LINK Remote Control System

コンピュリンク・リモートコントロールシステムとはリモコンまたは、希望するソースの操作ボタンを押すだけで、ワンタッチで自動的に再生することができるコンピューターコントロールシステムのことで

保証とアフターサービス

●保証書には購入年月日が必要

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および 記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

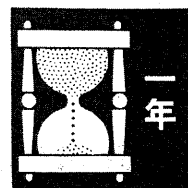


●保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。

保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。

そのほか詳細は、保証書をご覧ください。



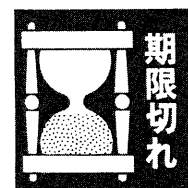
●アフターサービスのお問い合わせ

ご転居、ご購入、その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。また、もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。



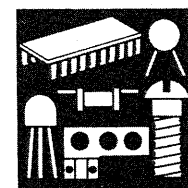
●保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって 機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。



●補修用性能部品の保有期間

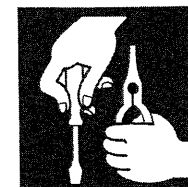
ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。



●修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度「故障? と思う前に」の項・22ページをご参照のうえ、よくお調べください。

それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。



- ・ 型名: FX-711
- ・ 住所、氏名、電話番号、道順
- ・ 訪問希望日
- ・ 故障状態をできるだけ詳しく

ご注意

■ 安全上の注意

●電源

電源はかならずAC（交流）100 V
をご使用ください。

電源周波数については、50 Hz 地域でも 60 Hz 地域でもそのまま使用できます。

●電源コード

・電源コードを抜き差しするときには、かならず電源プラグを持っておこなってください。

コードをひっぱったり、折り曲げたり、継ぎたしたり、あるいはぬれた手でさわったりした場合、火災や感電の原因となります。

・旅行などで長時間ご使用にならないときには、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。

●異常現象

煙がでている、変な臭いがする……などの故障状態のまま使用すると危険です。

急いで電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

●内部点検

本機の内部に触れることは、危険でしかも故障の原因となることがありますので、内部点検 および 調整は販売店にご相談ください。

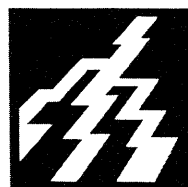
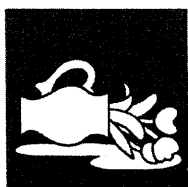
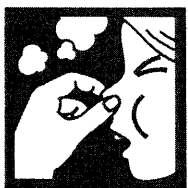
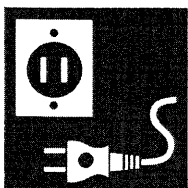
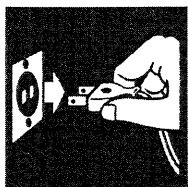
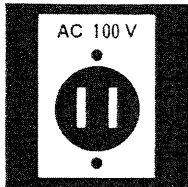
●水は大敵

本機の上に花びんなど、水のはいつた容器は置かないでください。

もし、水がはいった場合には、電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

●落雷

雷が鳴りはじめたら早目に電源コードを抜いて、アンテナ線には絶対に触れないでください。



■ 取り扱い上の注意

●設置上の注意

長くご愛用いただくためには、次の
点に配慮しながら設置してください。

- ・周囲温度 5℃～40℃
- ・水気や油煙の当たらない所。
- ・ほこりや振動の少ない所。
- ・水平で安定した所。

●アンテナの設置

アンテナは妨害電波の影響を避けるため、道路や電車の架線、電線、ネオンサイン……などから離れた場所に立ててください。

●キャビネットの変形・変色

直射日光やストーブの近くに設置すると、キャビネットの変形・変色を招くことがあります。

このような場所には、設置しないでください。

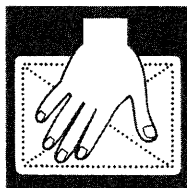
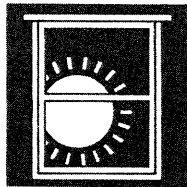
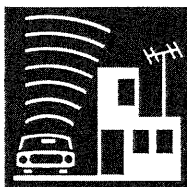
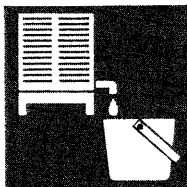
●キャビネットの手入れ

汚れがひどい場合には、中性洗剤などで汚れを落とし、乾いた柔らかい布でおろなくキャビネット全体を拭きとってください。

なお、シンナーやベンジン、殺虫剤など揮発性のものをかけたりすると、変色することがあります。

●外国での使用

本機は日本国内用に作られていますので、「電源電圧、放送規格」の異なる外国では使用できません。



接続のしかた

すべての接続が終わるまで、電源プラグは

■ 添付のアンテナ変換器 および 同軸プラグの使いかた

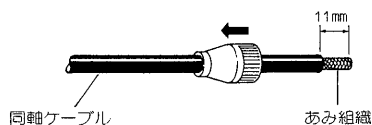
75Ω同軸ケーブル または 添付の FM アンテナは、添付のアンテナ変換器が同軸プラグに取り付けてから本体に接続してください。

同軸プラグ (同軸ケーブル型式 3C-2Vまたは5C-2V用)

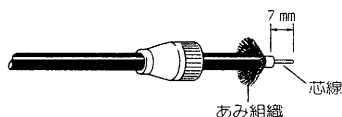
1. キャップをゆるめてベースからはずしてください。(5C-2V)使用の時はリングをはずします。



2. 同軸ケーブルにキャップをさし込み、同軸ケーブル先端を加工して下さい。



3. あみ組線をほぐして垂直にたて、同軸ケーブル先端を加工して下さい。

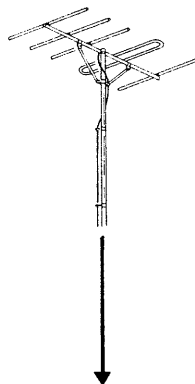


4. 同軸ケーブル先端をベースにさし込み(あみ組線が芯線に接触しないようにします。)キャップを強くベースに締めて下さい。



FM 屋外アンテナ

添付の FM アンテナ

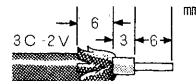
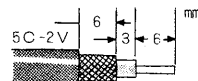


ぴーんと張り、回しながらもっとも受信状態のよい方向をさがし、固定する。

アンテナ変換器の取り付けかた

● 75Ω同軸ケーブルの場合

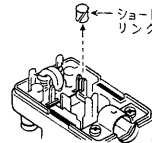
1



同軸ケーブルの被覆をむいて、芯線を出します。

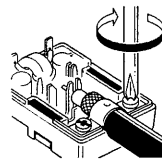
なお、同軸ケーブルが 3C-2V のときには、編線の部分を外側に折り返して下さい。

3

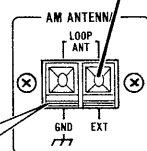
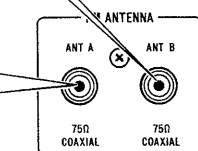
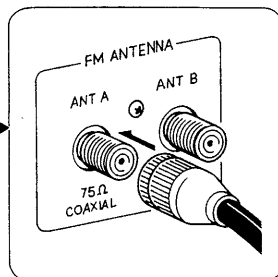
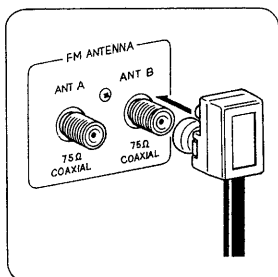


ショートリングを取りはずし、紛失しないようにケースの裏側に固定します。

4



同軸ケーブルの芯線のスリットの部分に差し込んで、編線の部分で固定します。



■ ループ・アンテナ

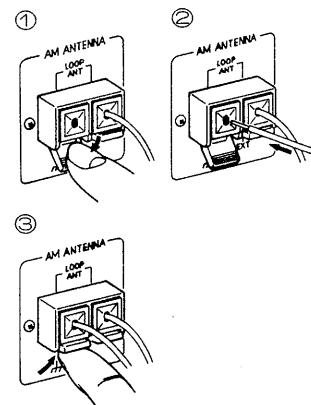
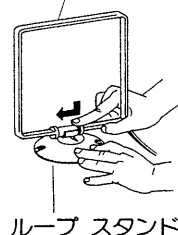
取り付けかた

添付のループ・アンテナを接続しなかったり、また アンテナ線を接続していてもリアパネルの金属部分にタッチしていると、AM 放送を受信することはできません。(右図参照)

AM 屋外アンテナをご使用になる場合でも、かならずループ・アンテナは取り付けおいてください。

ループアンテナは、図のようにループ スタンドに取り付け、もっとも受信状態が良くなる場所をさがし、その位置に置いてください。

AM ループアンテナ

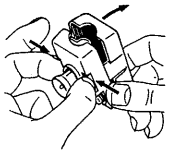


コンセントにさしこまないでください。

■ FM アンテナ端子 A/B の使用法

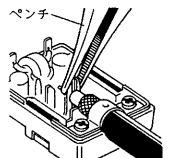
波長の短い電波では特に指向性に気を付けなければなりませんが、異なった方向から到来する FM 放送を雑音のない状態で聞くためには、それぞれの方向に対して 2 つのアンテナを設置し、最も受信状態の良いアンテナをお選びください。

2



アンテナ変換器のケースを両側から押して開きます。

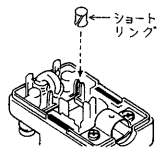
5



芯線の部分を締め付けて、ケースを取り付ければ完了です。

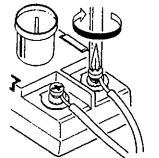
● 300Ω フィーダー線の場合

1



ショートリングを取り付けておきます。

2



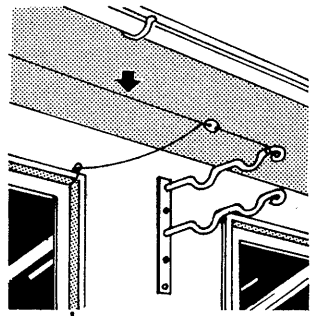
平行フィーダー線を固定します。

■ FM アンテナについて

添付の FM アンテナはあくまで簡易的なもので、電波事情のよい地域のかたのためのものです。

FM 放送を ^{ハイファイ} 受信するためには、FM 専用の屋外アンテナをご使用ください。テレビアンテナと共用することは、受信状態がむしろ悪くなることが多いので、おすすめできません。(12ページをご参照ください。)

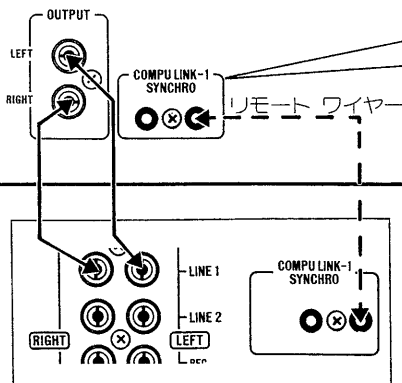
AM 屋外アンテナ



「物干」などを利用して 3 m~5 m のビニール線を張る程度でも十分効果があります。

(注)

AM 屋外アンテナをご使用になる場合には、かならず「アース」端子にアース線を接続し、大地アースをとってください。雑音が減ります。



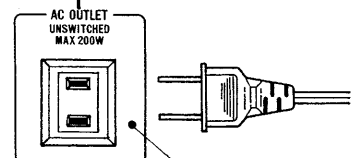
アンプが当社発売のコンピュリンク対応タイプの場合、この端子どうしを接続します。

■ 電源コードの極性表示について

本機の電源コードには、白い線（または 灰色の線）が片側に印刷されております。これは電源の極性を表示したもので、極性を表示してある他の機器（例えば弊社発売のプリメイン アンプ）とその極性を合わせて AC コンセントにさしこみますと、より良好な音質が得られます。

その場合には、電源コードの極性が表示されている白い線（または 灰色の線）がはいっている方を AC コンセントの下側（白丸印）へさしこみます。

本機にはメモリー回路が内蔵されており、またコンピュリンク対応になっていますので、正常な動作をさせるため、電源プラグはかならずアンプの「UN-SWITCHED」（スイッチ非連動）か、またはご家庭のコンセントに接続します。



白丸印

当社のプリメインアンプ AX-Z911と組み合わせる場合は LINE-1 へ接続します。

主要部分の名称および働き

オプティカルリンク OPTICALINK インジケーター

UP/DOWN ボタン、10キーなど選局動作を行なうボタンを操作すると、このインジケーターが点滅し、内部の OPTICALINK 回路が働いていることを示します。

パワー POWER

本機に電源を入れる場合、このボタンを押してください。電源が入るとディスプレイ部が点灯します。

- 本機では、電源を切っても、電源プラグをコンセントから抜かない限り、約 4 Wの電力が消費されております。

これは、プリセットした内容が消えないようにメモリー回路を働かせている為です。なお、電源プラグを抜いた時 または 停電があった場合やタイマーなどを使用した場合でも、常温で約 1 週間は、プリセットされた内容はメモリーされておりませんが、これを越えるとメモリーが解除されることがあります。

その時には、再度プリセットし直してください。

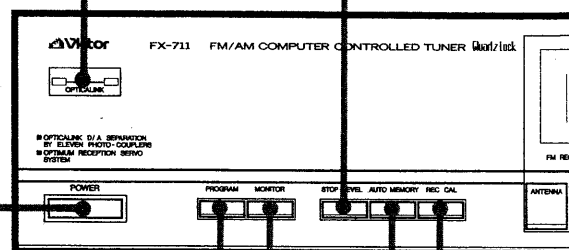
プログラム PROGRAM

8 種類の番組予約が可能です。留守録音等のときには、このボタンを押して、PROGRAM インジケーターを点灯させて待機状態にします。(20ページをご参照ください。)

- MONITOR インジケーターが点灯していない状態で、PROGRAM インジケーターが点灯中は、POWER と PROGRAM 以外のコントロール・ボタンは動作しません。

モニター MONITOR

番組予約をする場合や、その内容をモニターする場合このボタンをします。この時 PROGRAM と MONITOR インジケーターが同時に点灯します。(20ページをご参照ください。)



ストップ レベル STOP LEVEL

このボタンは、オートメモリー または オートストップ使用時の、ストップ感度を設定するときに押します。感度は、FM 局については 5 dB 毎に20dBから60dBの範囲で、また AM 局については 5 dB 毎に60dBから90dBの範囲で調整することが可能です。(17ページをご参照ください。)

レコーディング キャリブレーション REC CAL

録音レベルを合わせるときに使います。このボタンを押すと、「R-CAL」が文字ディスプレイ部に表示され、約440 Hz の基準信号が出力されます。録音レベルメーターが 0 VU を指すようテープデッキの録音レベル・ボリュームを調整します。

- 約440 Hz の基準信号が出ている時には、放送を受信できません。録音レベルのチェックが終わり次第、このボタンをもう一度押して OFF にし、通常の受信状態に戻します。

オート メモリー AUTO MEMORY

このボタンを押すと MEMORY インジケーターが点灯します。この時、PRESET CHANNEL 表示部が点滅し、ディスプレイ部に「KEY-IN」という文字が点滅します。この「KEY-IN」が点滅している間（約5秒間）に10キーで、プリセット・チャンネルを押すと、受信中の放送から順に周波数の高い方に自動的にメモリーされます。(16ページをご参照ください。)

主要部分の名称および働き

アールエフ モード RF MODE

通常は、^{ディエックス}DX /^{ローカル}LOCAL インジケータが **DX** を表示するようになっていますが、入力信号が強過ぎる地域では、**LOCAL** を表示します。

- LOCAL 時は内部で約20dB電波を弱めています。
- UP/DOWN ボタンによる選局操作時 DX/LOCAL はレセプション・サーボ回路により自動的に設定されます。
- DX/LOCAL は FM のプリセット・チャンネルに周波数と同時にメモリーされます。

アンテナ ANTENNA

本機リアパネルの FM ANT A または FM ANT B 端子に接続されているアンテナを選択します。

- ANTENNA A/B の状態は FM のプリセット・チャンネルに周波数と同時にメモリーされます。

アイエフ バンド IF BAND

通常は、FM IF インジケータが ^{ワイド}WIDE を表示します。妨害電波が強過ぎたり または 受信電波が弱過ぎたりしてノイズが発生する地域では、^{ナロー}NARROW を表示します。

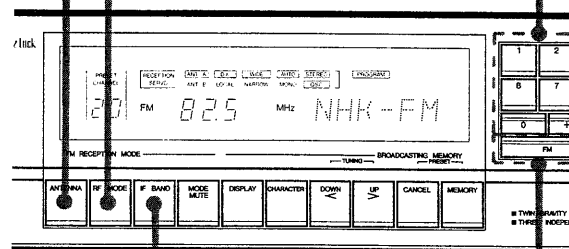
- UP/DOWN ボタンによる選局操作時 WIDE/NARROW はレセプション・サーボ回路により自動設定されます。
- WIDE/NARROW はFM のプリセット・チャンネルに周波数と同時にメモリーされます。

FM

FM 放送を聞くときにこのボタンを押します。

AM

AM 放送を聞くときにこのボタンを押します。



プリセット・チャンネル用10キー（「1」～「10」、「0」、「+10」）

本機では FM、AM 合わせて最高20局までランダム（順不同）にプリセットすることができます。プリセット終了後、これらのキーを使ってプリセット・チャンネル番号を入力し希望のチャンネルを選択します。「1」から「10」までのプリセット・チャンネルを選択する時には、対応する10キーを押します。「11」以上のプリセット・チャンネルを選択する場合は、先ず「+10」キーを押して、次に「1」から「10」までの対応するキーを押します。

例1) プリセット・チャンネル15を選択する場合

- ・まず「+10」キーを1回押して、次に「5」キーを押します。

例2) プリセット・チャンネル20を選択する場合

- ・「+10」キーを2回押して、次に「0」キーを1回押します。あるいは「+10」キーを1回押して、次に「10」キーを押します。

希望のプリセット・チャンネルが呼び出されると、その番号と周波数が表示されます。局名もメモリーされている場合には、それも同時に表示されます。

- プリセット・チャンネルを呼び出す度に、レセプション・サーボ機能によってQSCが最適状態にセットされます。
- 「0」キーは、プリセット・チャンネル「10」または「20」を呼び出す時に、「+10」キーを押したあとと押します。
- プリセット・チャンネルを呼び出した時は、文字ディスプレイは優先的に局名表示を行います。放送局名が入力されていない場合はブランク（何も表示されていない）状態となります。

プリセット アップ PRESET UP

このボタンを押すと、表示されるプリセット・チャンネル番号は大きい番号に向かって変わっていきます。（18ページをご参照ください。）

プリセット ダウン PRESET DOWN

このボタンを押すと、表示されるプリセット・チャンネル番号は小さい番号に向かって変わっていきます。（18ページをご参照ください。）

- MEMORY ボタンを押して MEMORY インジケーターが点灯している状態の時は、PRESET UP あるいは、PRESET DOWN ボタンを押すとプリセット・スキャン動作が始まります。
- プリセット・スキャン動作が始まると、PRESET UP ボタンを押した場合は、それまで受信していたプリセット・チャンネル番号より一つ上の、（PRESET DOWN ボタンを押したときは一つ下の）プリセット・チャンネル番号が点滅し、約4秒間そのチャンネルを受信します。次いで自動的にもう一つ上の（または下の）プリセット・チャンネルに移って同様の動作を行い、これが順次繰り返されます。
- プリセット・スキャン動作は、最初に受信していたプリセット・チャンネルに戻った所で終了します。
- 但しこの際、プリセット・キャンセル機能を用いてキャンセルされたプリセット・チャンネルは飛び越されます。（18ページをご参照ください。）
- プリセット・チャンネル番号が表示されていない状態でプリセット・スキャン動作を始めると、PRESET UP ボタンを押した時は、プリセット・チャンネル1から始まってプリセット20までいった後、最初の受信状態に戻って終了し、PRESET DOWN ボタンを押した時は、プリセット・チャンネル20から始まってプリセット1までいった後、最初の受信状態に戻って終了します。

主要部分の名称および働き

モード ミュート MODE/MUTE

通常は、モード・インジケータが **AUTO** を表示するようになっています。受信電波が弱かったりノイズが混入する時にはこのボタンを押して **MONO** を表示させます。

AUTO 表示になると自動切換により、FM ステレオ放送はステレオで、また FM モノラル放送はモノラルで受信し、電波が弱い放送のステレオ放送ノイズは QSC 回路で軽減されます。**MONO** 表示の場合には、FM ステレオ放送も強制的にモノラル受信となりますが、ノイズの少ない放送を聞くことができます。また、**AUTO** 表示の場合は局間ノイズを消却するミュート回路が動作し、**MONO** 表示の場合はこのミュート回路を解除します。

- AUTO/MONO は FM のプリセット・チャンネルに周波数と同時にメモリーされます。

ディスプレイ DISPLAY

文字ディスプレイ部に放送局名などが表示されている状態でこのボタンを押すと、信号レベルが dB で表示されます。FM 放送で10 dB以上または AM 放送で50dB以上の信号レベルが1 dB刻みで表示されます。

理想的な信号レベルは、FM モノラル放送で40dB以上、FM ステレオ放送で60dB以上、AM 放送で70dB以上です。

このボタンをもう1度押すと、放送局名を表示します。

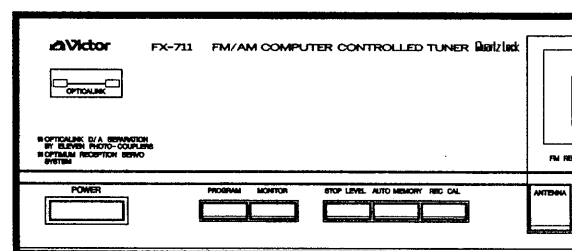
- FM 放送では0 dBが1 $\mu\text{V}/75\Omega$ に相当し、AM 放送の場合には1 $\mu\text{V}/\text{m}$ に相当します。
- RF LOCAL/DX を切り換えた際、LOCAL と DX では dB表示の値が異なる場合があります。
より適正に FM 信号レベルを表示させるために、90dB以上では RF MODE を LOCAL に切り換えてご使用ください。

キャラクター CHARACTER

プリセット・チャンネルに放送局名などをメモリーするときにこのボタンを押します。まずこのボタンを押すと、文字入力モードになります。次に、UP/DOWN ボタンで入力したい文字 または数字・記号を選択して最初の桁の文字を決定します。

このボタンをもう1度押すと、次の桁の文字入力状態に移ります。

- 一つのプリセット・チャンネルに最高6文字まで入力可能です。
(15ページをご参照ください。)



キャンセル CANCEL

このボタンは、放送局名などの文字を取り消したり、番組予約の内容を取り消したり、あるいは プリセット・チャンネルの取り消しに使用します。(15、17、20ページをご参照ください)

メモリー MEMORY

このボタンを押すと、MEMORY インジケータが約5秒間点灯して、プリセット・チャンネルに放送局を記憶できる状態にあることを表示します。MEMORY インジケータが点灯中に10キーでプリセット・チャンネルの1つを選択します。

FM の場合には、ANT A/ANT B、DX/LOCAL、WIDE/NARROW、AUTO/MONO も周波数と一緒にメモリーされます。

- MEMORY インジケータが消えた後にプリセット・チャンネル キーを押しても、周波数はメモリーされません。この場合は、もう一度 MEMORY ボタンを押してメモリーインジケータを点灯させ、プリセット・チャンネル キーを押します。

チューニング TUNING DOWN (<)、UP (>)

現在の周波数より低い周波数の放送局を選局する時に DOWN (<) ボタンを押します。また局名をメモリーする時に必要な文字を UP と反対方向に探す場合にもこのボタンを使用します。

現在の周波数より高い周波数の放送局を選局する時にUP (>) ボタンを押します。

また、局名をメモリーする時に必要な文字を DOWN と反対方向に探す場合にもこのボタンを使用します。

- DOWN (<) ボタンを押した時にはディスプレイに "F-DOWN" が、UP (>) ボタンを押した時には "F-UP" が表示され、自動選局中は "SEARCH" が表示されます。
- TUNING ボタンを1回ずつ押すと FM では0.1MHz、AM の場合には9kHzステップで変化し、約0.5秒以上押し続けると連続的に変化させることができます。

ディスプレイ（表示）

RECEPTION SERVO インジケーター

^{アンテナ}
ANT A/ANT B :
放送受信にどちらのアンテナが使用されているかを表示します。

^{ディエックス} DX / ^{ローカル} LOCAL :

FM RF 感度を表示します。

^{ワイド} WIDE / ^{ナロー} NARROW :

FM IF 帯域幅を表示します。

^{オート} AUTO / ^{モノラル} MONO :

FM AUTO と FM MONO のどちらが選択されているかを表示します。

^{ステレオ} STEREO ^{キョーエスシー} QSC :

AUTO インジケーターが点灯しているときに FM ステレオ放送を受信すると、STEREO インジケーターが点灯します。

FM ステレオ放送の受信状態が悪い場合に、QSC インジケーターが点灯し、QSC回路が働いてノイズを抑えます。受信電波が強い場合には、この回路は自動的に OFF となります。

PROGRAM インジケーター

PROGRAM ボタンを押すとこのインジケーターが点灯し、留守録用に番組予約がされたことを表示します。

PROGRAM MONITOR インジケーター

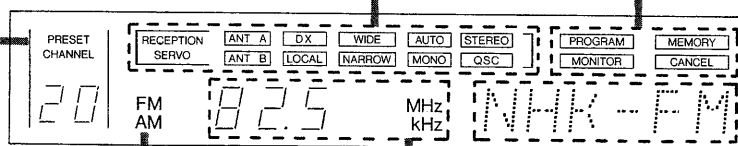
このインジケーターは、番組予約するときや、その内容を確認するときに点灯します。

MEMORY インジケーター

MEMORY または AUTO MEMORY ボタンを押すとこのインジケーターが約5秒間点灯します。

CANCEL インジケーター

CANCEL ボタンを押すとこのインジケーターが約5秒間点灯します。



PRESET CHANNEL 表示

10キーで選択したプリセット・チャンネルを表示します。本機では、FM と AM 合わせて20局までランダム（順不同）にプリセットできます。更に、プリセットされた放送局の番組予約やモニターする時の選局番号も同様に表示します。

FM/AM インジケーター

FM 放送を受信している時には「FM」が、また AM 放送を受信中には「AM」が表示されます。

周波数表示

FM 放送は「MHz」で、また AM 放送は「kHz」で周波数を表示します。

放送局名/電界強度表示

あらかじめ入力しておいた放送局名や受信中の電界強度（電波の強さ）を表示します。また、操作の状態も表示します。

- CHARACTER ボタンと UP/DOWN ボタンを使い、文字と数字と記号で最大6文字までの放送局名やメッセージなどを周波数と一緒にメモリーしておく、希望のプリセット・チャンネルを受信した時、放送局名がディスプレイ部に表示されます。
- UP/DOWN ボタンを押して周波数を変更時、また、STOP LEVEL ボタンでストップ・レベルを設定している場合には自動的に電界強度を表示します。

アンテナについて

■ AM アンテナ

AM 放送の電波が弱い時には、AM ANTENNA EXT 端子に屋外 AM アンテナ（単線アンテナ）を接続します。（この時、添付ループ・アンテナも一緒に接続してください。）

■ FM アンテナ

本機には2本の FM アンテナを接続できるように、2個のアンテナ端子が取り付けられています。電波事情により、受信状態の良いほうのアンテナを選択できます。FM 放送の電波は、光のように直進する性質をもっていますので、地形の影響を受け易い性質をもっています。FM アンテナが適切に設置されていないと、FM 放送をその特色である良い音質で聞いたり、また、お買上げいただいた本機の性能を十分に発揮することができません。お住いの条件に合わせて、最適なアンテナの設置を行なうようにしてください。

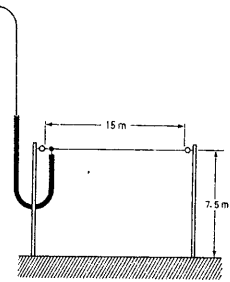
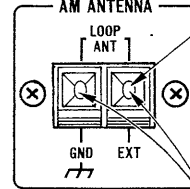
- 電波事情のよい地域では添付の FM アンテナを接続しますが、室内アンテナは、人や物の動きで不安定な状態になりやすく、安定した受信をするためには、屋外 FM アンテナを接続した方がより良い結果が得られます。
- 屋外アンテナは、3素子、5素子、7素子が標準的ですが一般的に素子数が多ければ多いほど、利得も高く指向性にも優れています。

■ FM アンテナの設置

FM 放送を聞きながらアンテナをいろいろな方向に回し、マルチパス障害のもっとも少ない方向を見つけます。DISPLAY ボタンを押して電界強度を表示させ、電界強度の表示 (dB) が大きくなる方向にアンテナを調整します。この際には、比較的ノイズ・レベルの小さい放送局を選局するようにして、歪みやノイズを最少限に抑えられるようにアンテナを調整します。

- マルチパス障害はテレビを受信する際の「ゴースト現象」と同じです。この障害は、チューナーが2つ以上の信号を同時に拾うために発生します。つまり、ひとつは放送局から直接届いた信号で、それ以外は丘やビルに反射して直接受けた信号より若干遅れて届いた信号です。

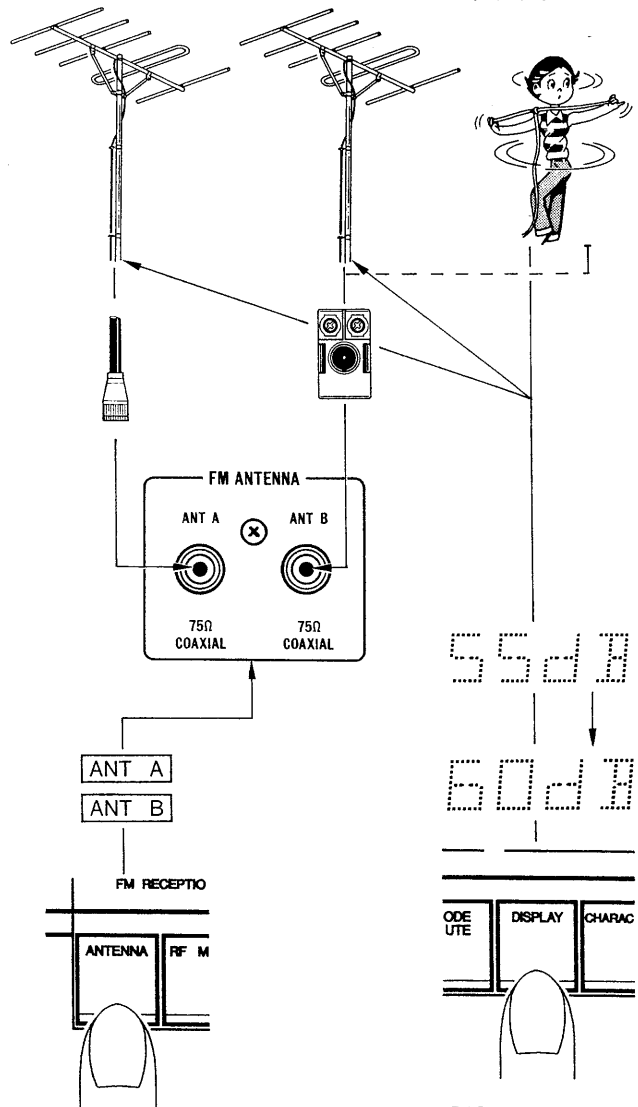
■ AM アンテナ



アースをとってください。

■ FM アンテナ

FM 屋外アンテナ FM 屋外アンテナ 添付の FM アンテナ



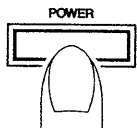
受信状態の良い方のアンテナを選ぶ。

1. DISPLAYボタンを押す。
2. 電界強度を表示。
3. 数字の大きい位置にアンテナを設置。

放送を聞くには

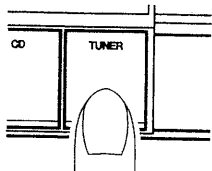
1. 電源を入れる

電源ボタンを押します。



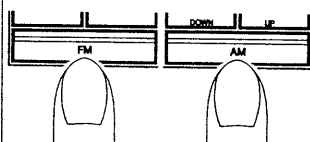
2. アンプの操作

放送が聞けるようにアンプの操作をします。



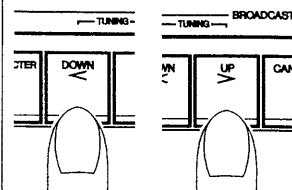
3. 放送を選ぶ

FM、または AM ボタンを押します。



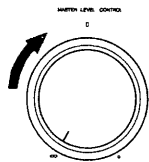
4. 選局する

受信周波数を高くするときは、“UP(>)”ボタンを、また低くするときは“DOWN(<)”ボタンを押します。



5. 放送が聞けるように音量をあげます。

音量はアンプ側の音量つまみで調整します。



- コンピューリング対応のアンプ(AX-Z911等)と接続した場合は、FM/AM ボタンを押すが、10キーでプリセット・チャンネルを入力すると、アンプのソースセクターが自動的に切り換わります。

●放送局の正確な周波数が分からない場合

UP(>) または DOWN(<) ボタンを約0.5秒以上押し続けてから手を放します。これで自動選局が始まります。放送を受信すると自動選局が停止します。(高い周波数の放送を探す場合には、UP(>) ボタンを押します。また逆の場合には、DOWN(<) ボタンを押します。) 自動選局を停止する場合は、もう一度 UP(>) または DOWN(<) ボタンを押します。

●自動選局で探し出せる放送が少ない場合

手動選局にすると自動選局では受信不能な電波の弱い放送も選局可能となります。(STOP LEVEL 設定が--dBで自動選局できない場合)

UP(>) または DOWN(<) ボタンを一回押します。手動選局が可能となり、FM の場合には100kHzの間隔で、また AM の場合には9 kHzの間隔で周波数をかえていくことができます。MODE/MUTE を MONO にしてこの方法を使えば、自動選局では電波が弱く受信不能の放送も選局可能となります。

●放送局の周波数が分かっている場合

UP(>) または DOWN(<) ボタンを押し続けて希望周波数の付近まで選局し、次に一回づつ UP(>) または DOWN(<) ボタンを押して正確な周波数に合わせます。

●放送周波数をプリセットしてある場合

10キーで希望のプリセット・チャンネル番号を入力します。

放送局のプリセット方法については、14ページ「プリセットのしかた」を参照してください。

●電波が弱過ぎたり妨害電波がある場合には、自動選局が正確に行われないこともあります。このような場合には、屋外アンテナを設置するかまたは手動選局を行ってください。

●受信状態が良いにもかかわらず **MONO** が点灯している場合には、ステレオ放送がモノラルで聞こえます。また電波が弱すぎる地域で **AUTO** が点灯していると、ミュート回路によって放送が聞こえなくなる場合があります。

受信地域の電波の状態に合わせて MODE/MUTE ボタンを押してください。

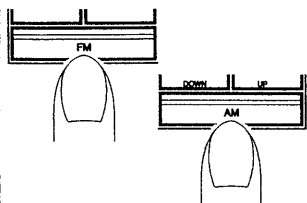
●電源を入れた時、プリセット・チャンネルが呼び出されていない場合のみ、“VICTOR OPTICALINK HI-FI TUNER” と表示されます。

プリセットのしかた

- よく聞く放送局は、プリセットしておくで選局が簡単で便利です。
- プリセットする放送局の周波数を、あらかじめ調べておきます。
- 操作に入る前に、プログラムインジケータが消えていることを確認します。

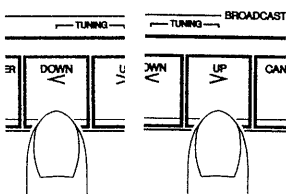
1. 放送を選ぶ

FM または AM ボタンを押します。



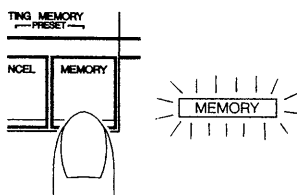
2. 選局する

受信周波数を高くするときには、「UP(>)」ボタンを、また低くするときには「DOWN(<)」ボタンを押します。



3. メモリー

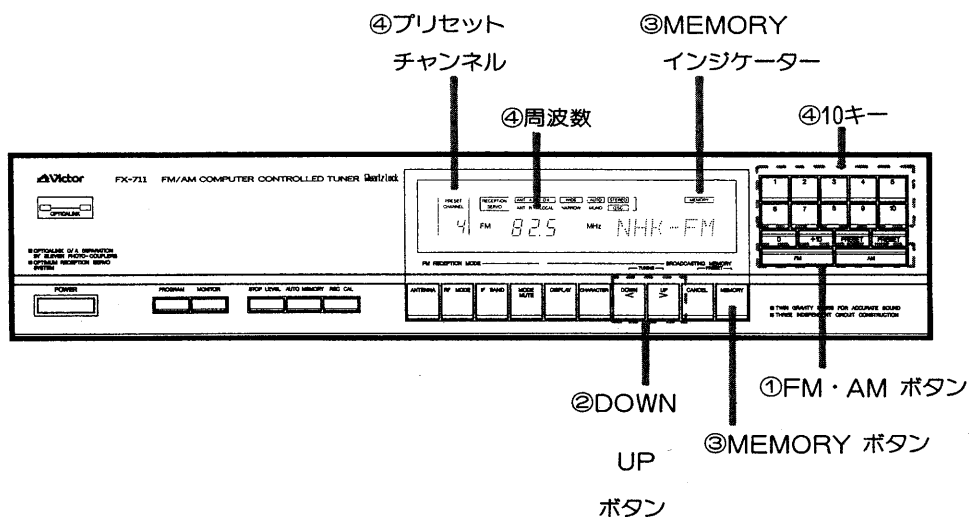
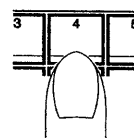
MEMORY ボタンを押します。
MEMORY インジケータが約5秒間点灯します。



4. プリセット

MEMORY インジケータが点灯している間に、10キーでプリセット・チャンネル番号を入力して、プリセット・チャンネルの一つを選択します。

周波数が (ANT A / ANT B, RF MODE、IF BAND 並びに MODE / MUTE とともに) 選択したプリセット・チャンネルにメモリーされます。



10キーのつかいかた

例

- 20番目のプリセット・チャンネルを選択する場合：
先ず「+10」ボタンを2回押して次に「0」ボタンを1度押すか、或いは「+10」ボタンを1回押して次に「10」ボタンを押します。
- 15番目のプリセット・チャンネルを選択する場合：
最初に「+10」ボタンを押して次に「5」ボタンを押します。

1	20番を選択する場合	 二度押す	 押す
	20番を選択する場合	 押す	 押す
2	15番を選択する場合	 押す	 押す

(注)・

- MEMORY インジケータが消えている状態では、10キーを押してプリセット・チャンネルを呼び出しても、周波数をメモリーできません。

ブロードキャスト・メモリーの使いかた

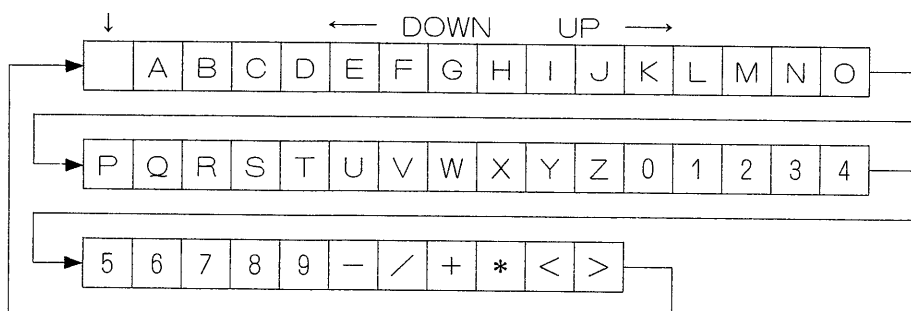
プリセットしたチャンネルに放送局名などをメモリーしておく、受信している放送局がディスプレイで、一目で確認できます。

- 10キーでチャンネル番号を入力して文字を記憶させたいプリセット・チャンネルを呼び出します。
 - CHARACTER ボタンを押します。
この段階で、それ以前に記憶させた文字がある場合には、その文字の最初の部分が点滅します。記憶させた文字がない場合には、「」が文字列の最初の位置で点滅します。
 - 希望の文字、数字 または 記号が表示されるまで UP (>) または DOWN (<) ボタンを繰り返し押します。
この状態で CANCEL ボタンを押すと、表示されている文字は消えてその代わりにブランク (「」) がその位置に現れます。
希望の文字が表示された時点で、CHARACTER ボタンをもう一度押します。
点滅場所が一つ右に送られます。
 - 上記 2 と 3 の操作を繰り返して、他の文字、数字 または 記号を必要に応じて入力していきます。
- 一番右の桁が点滅している状態で CHARACTER ボタンを押すと通常表示状態に変わります。
 - 文字ディスプレイには最高 6 文字まで記憶できます。

ボ タ ン 操 作	インジケーター
1 	PRESET CHANNEL 2
2 	
3 	
4 	NHK-FM

- 文字ディスプレイ入力モードでは、UP/DOWN ボタンを押すと文字は以下の順番で表示されます。UP/DOWN ボタンを0.5秒以上押し続けると、ボタンから手を放すまで表示される文字は連続的に変わっていきます。

ブランク

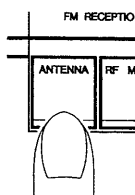


- 例「D」が表示されている場合、UP (>) ボタンを押すと表示は「E」に変わり DOWN (<) ボタンを押すと表示は「C」に変わります。
- プリセットチャンネルが呼び出されていない状態で文字を入力後にプリセット・チャンネルにメモリーせずに周波数を変えると、この文字は取り消されますので、文字を入力する前に、受信周波数を正確にプリセットしてそのプリセット・チャンネルを、呼び出しておきます。
 - 文字入力中5秒以上 CHARACTER、DOWN (<) 、UP (>) が押されないと文字の点滅状態から通常表示状態に変わります。
 - 文字入力作業を途中で止める場合には、5 秒間放置するか、DISPLAY ボタンを押します。
 - 文字入力作業中に CANCEL ボタンを押すと点滅中の文字がブランクになります。

オートメモリーのしかた

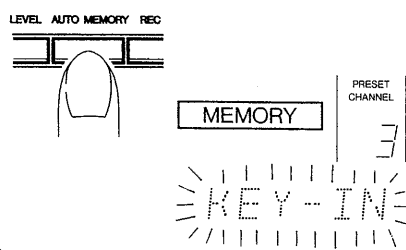
1.

ANTENNA ボタンを押してアンテナを選択します。FM アンテナが接続されていない時には、選局はできません。



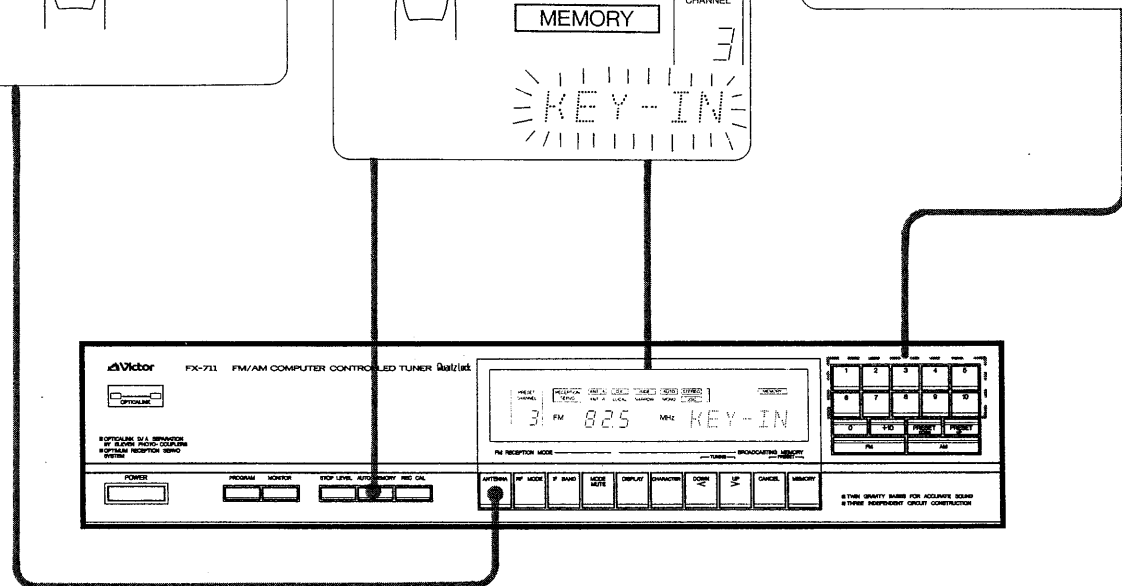
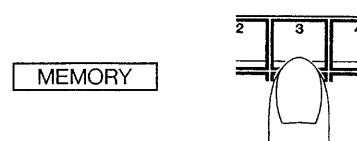
2.

AUTO MEMORY ボタンを押します。MEMORY インジケータが約5秒間点灯すると同時に、プリセット・チャンネル番号と「KEY-IN」の表示が点滅します。



3.

MEMORY インジケータが点灯している間にメモリーを開始させたいプリセット・チャンネルキーを押します。



●受信周波数は高い方に連続的に変わっていきます。途中で放送を受信すると押したプリセット・チャンネルから同時に、RF MODE、IF BAND 並びに QSC が受信電波の強弱に応じてレセプションサーボ機能により自動的に最適状態にセットされ、周波数と一緒にプリセット・チャンネルに順次、自動的にメモリーされます。

オートメモリー機能をはじめるときには、先ずディスプレイ部に表示されている周波数をオートメモリー動作を開始させたい周波数よりも低い周波数にセットします。MEMORY インジケータが消えていると、プリセット・チャンネル番号を入力しても、オートメモリー機能は働きません。このような場合には、AUTO MEMORY ボタンをもう一度押して、MEMORY インジケータを点灯させ希望番号を10キーで入力します。

●上限の周波数までをスキャンすると、オートメモリー動作を終了して、一番高い周波数をメモリーしたチャンネル番号が呼び出されます。

●放送周波数をメモリーしなかった場合には、帯域の上限周波数（90MHz または 1629kHz）で停止します。

●プリセット・チャンネル全てに周波数をメモリーした場合は、最後の周波数が選局されて、そのチャンネル番号（20）が表示されます。

●MEMORY インジケータが消えた後に10キーでプリセット・チャンネル番号を入力しても、オートメモリー機能は働きません。

●オートメモリー動作が完了すると、「AUTO MEMORY END」という文字が表示されます。

●メモリーしたくない局を受信した時は、チャンネル番号が点滅している間（約4秒間）に、AUTO MEMORY ボタンを押してください。

その局をメモリーせずに、オートメモリー動作を続けます。

ストップレベルの使いかた

1. STOP LEVEL ボタンを押します。

「LEVEL」がおよそ1秒間表示され、その後 FM モードの場合には、「--dB」、「20dB」、「25dB」、「30dB」、----「55dB」、「60dB」の順でディスプレイが変わっていき、再び「--dB」に戻ります。

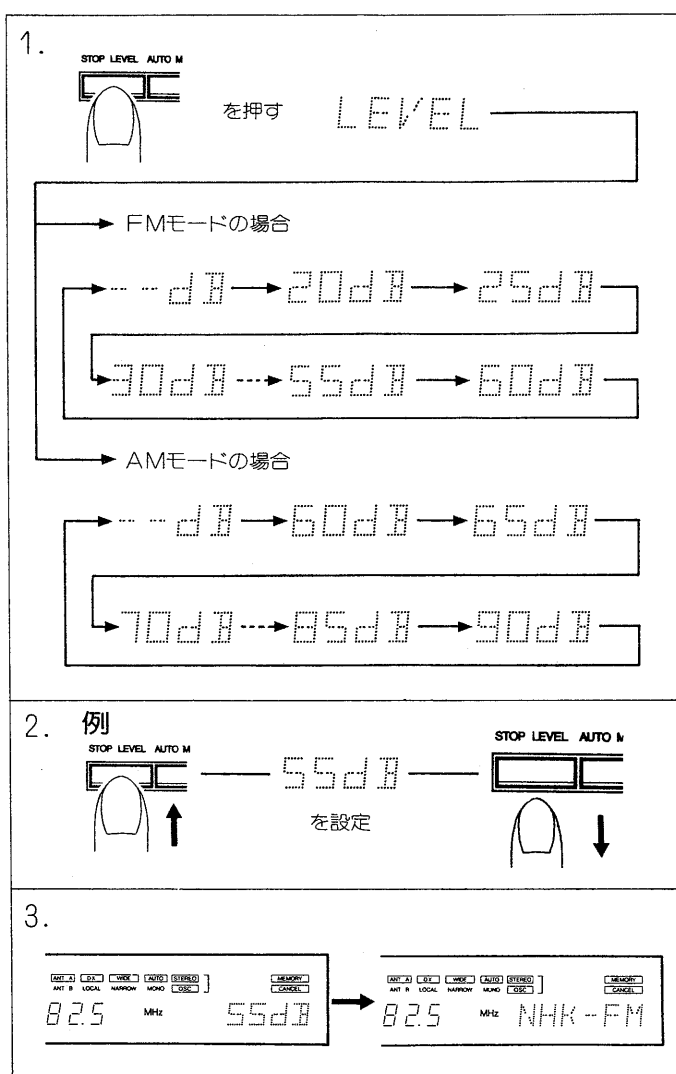
AM モードでは、「--dB」、「60dB」、「65dB」、「70dB」、----「85dB」、「90dB」の順でディスプレイが変わっていき、再び「--dB」に戻ります。

「--dB」が表示されると、ストップレベルが FM で20dB未満、AM で60dB未満になります。

2. STOP LEVEL ボタンを押している間、レベルが順番にdB表示されますので、希望のレベル表示のところでボタンから指を離すと、そのレベルが自動的に設定されます。

3. 設定されたストップ・レベルが約5秒間点滅表示されると、通常のディスプレイに復帰します。

- 設定したストップレベルは、FM、AM とともにレベル設定変更しないかぎり、変わりません。
- 設定ストップレベルの確認は STOP LEVEL ボタンを押します。「LEVEL」表示したあとストップレベルが表示されます。
- 電波の弱い放送局を探す場合は、ストップ・レベルを低い方の値に、電波の強い放送局を探す場合には、このレベルを高めめの値にセットします。



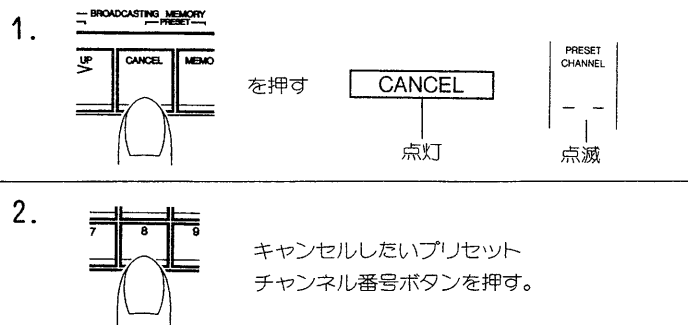
プリセット・チャンネルの取り消し

放送局がメモリーされていない不要なプリセット・チャンネルをキャンセルすることができます。

例えば、プリセット・チャンネルの1から7に FM 局をメモリーし、11から18のプリセット・チャンネルに AM 局をメモリーした場合、不要なプリセット・チャンネル（8、9、10、19および20）をキャンセルできます。キャンセルすると、使用されていないプリセット・チャンネル（この場合には、8から10までと19、20）は PRESET UP/DOWN ボタンで選局を行うときや、プリセット・スキップ操作を実施するときにスキップされます。

1. PROGRAM および MONITOR インジケータが点灯していない状態で、CANCEL ボタンを押します。CANCEL インジケータが点灯し、プリセット・チャンネル 番号が点滅します。

2. 取り消しすべきプリセット・チャンネル番号を10キーで入力します。

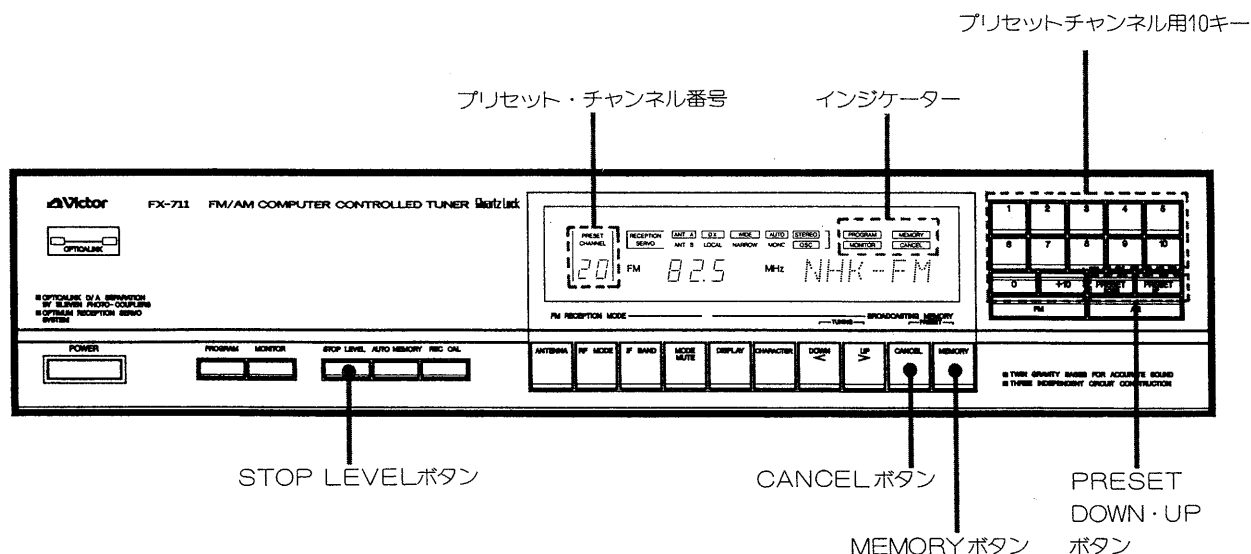
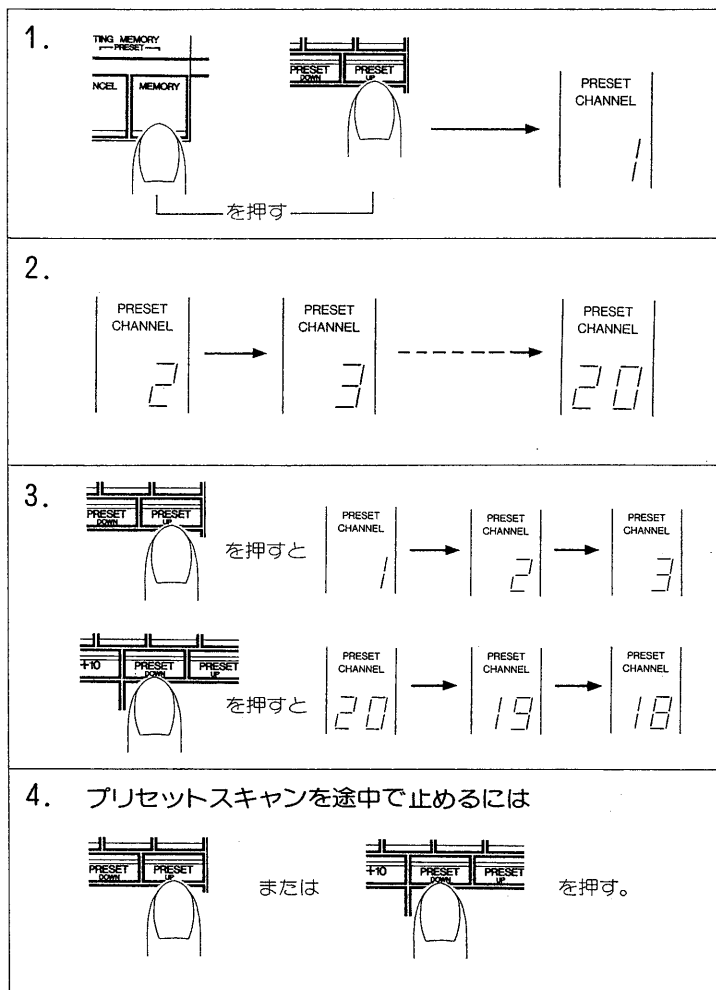


- 一旦取り消すと、10キーでプリセット・チャンネルを呼び出すことはできません。
- 取り消したプリセット・チャンネルが再び必要となった場合には、メモリー操作で該当プリセット・チャンネルにメモリーしてください。

プリセット・スキヤンのしかた

メモリーしたプリセット・チャンネルを自動で連続的に約5秒間づつ呼び出して、プリセット・チャンネルの放送内容を簡単にチェックすることができます。

1. 先ず MEMORY ボタンを押して、次に PRESET UP (または PRESET DOWN) ボタンを押します。ディスプレイ部のプリセット・チャンネル番号は一つづつ増えて(減って)いき、対応するプリセット・チャンネル番号にメモリーされた周波数が約5秒間呼び出されます。
2. この操作は自動で連続的に行われます。プリセット・スキヤン操作は、プリセット・チャンネル番号を全てスキヤンした時点(即ち、プリセット・スキヤン操作の開始前のチャンネル番号まで一周した時点)で停止します。
3. この操作中、各プリセット局が放送している番組を、呼び出し後約4秒間づつ聞くことができます。
4. プリセット・スキヤン操作は、アップ・スキヤンの場合には、……18、19、20、1、2、3、……の順序で、またダウンスキヤンの場合には、……3、2、1、20、19、18、……の順序で行われます。
5. プリセット・スキヤン操作を途中で止める場合には、もう一度 PRESET UP (または PRESET DOWN) ボタンを押します。これでプリセット・スキヤン操作は停止し、ボタンを押した時点で受信されているプリセット・チャンネルがそのまま受信できます。



録音をするには

録音のしかた

1. 録音する放送局を選局します。
 2. ^{レコーディング キャリブレーター} REC CAL ボタンを押して、テープデッキの録音レベルメータが 0 VU を指すように録音レベルを調整します。
 3. 録音レベルの調整が終了したら、REC CAL ボタンを押して REC CAL 信号の出力を止めます。
 4. テープ・デッキを録音状態にセットします。
- (注)・自動録音調整回路が内蔵されているテープデッキでは 2. 3. の操作は不要です。

留守録音のしかた

オーディオ・タイマーを組み合わせると留守番録音ができます。

●一局だけの留守録音

^{プログラム} PROGRAM インジケータが点灯していない状態で電源を再投入すると、電源を切る前に受信していた最後の周波数が選局されて、自動的に録音されます。チューナーの電源を切る前に、希望の局に合わせます。

●録音予約

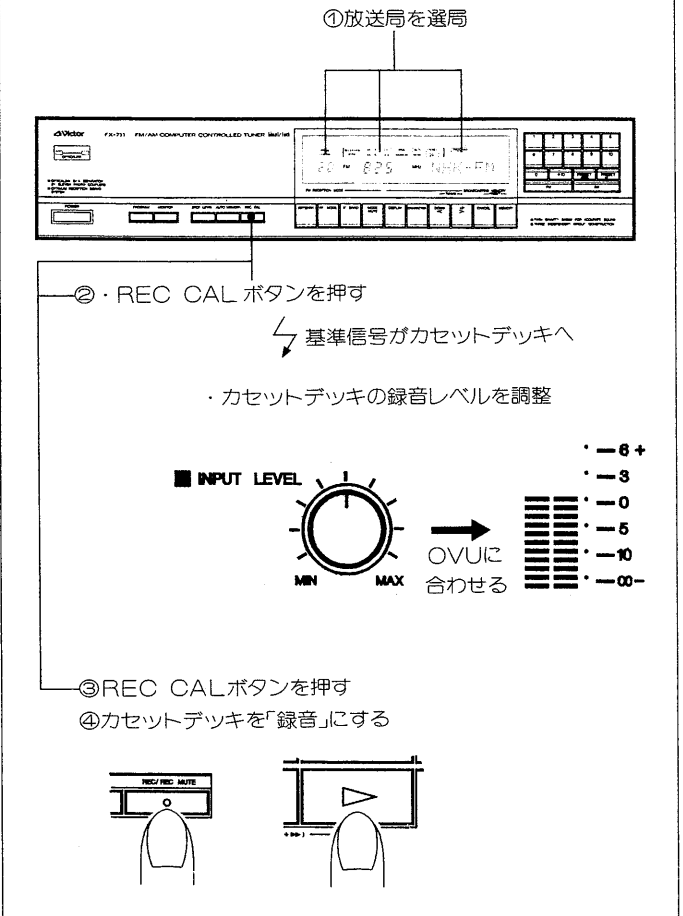
留守番録音用に AM、FM 局を最高 8 局まで予約することができます。

先ず最初に、本機の電源コードをタイマーに接続し、希望の局を予約します。次に、希望の時間にタイマーをセットし、テープデッキを録音モードにします。

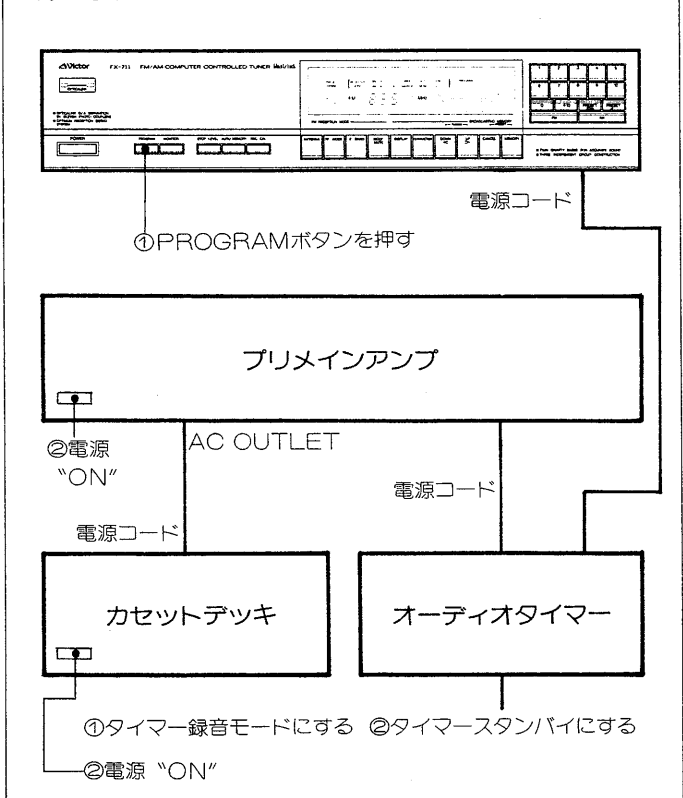
1. PROGRAM ボタンを押して、PROGRAM インジケータを点灯させ、デッキをタイマー録音モードにセットします。
2. 関連機器の電源スイッチを ON にしたままで、タイマーをスタンバイ・モードにセットします。
本機も POWER ON にしておきます。
3. セットした時間がくると、各機器に電源が入り、最初に予約した局 (PRGM-1) がチューナーで受信されます。
4. こうして、セットした時間がきてチューナーに電源が入る度に、PRGM-2 - PRGM-3 ……と、受信される局が予約の順番通りに自動的に変わっていき、録音が行われます。

(注)・目覚し再生の場合も同様の方法で楽しめます。

●録音のしかた



●録音予約



番組の予約のしかた

まず、どのような順序で番組予約を行うかを決定します。
次に、MONITOR ボタンを押します。

1. 「PROGRAM」及び「MONITOR」インジケータが同時に点灯します。これとともに、文字ディスプレイ部に「PRGM-1」が表示され、PRESET CHANNEL ディスプレイ部ではプリセット・チャンネル番号または「--」が点滅します。
2. 10キーで希望のプリセット・チャンネル番号を入力してください。

例えば、プリセット・チャンネル15を入力する時には、「+10」キーを押して次に「5」キーを押します。これでプリセット・チャンネルの内容がディスプレイ部に表示されます。この操作で「PRGM-1」にはプリセット・チャンネルがメモリーされます。もう一度 MONITOR ボタンを押します。文字ディスプレイ部には「PRGM-2」が表示されます。

こうして、最大8番組まで予約可能ですが、希望の番組数まで同じ操作を繰り返します。

その後、MONITOR ボタンを押して「PRGM-8」まで送り、もう一度押すと番組予約は終わります。

- 番組予約中は、予約操作を開始する前に受信されている放送が、そのまま受信されます。

番組予約の確認

番組予約が終わったあと、MONITOR ボタンを押すと、1回押すたびに「PRGM-1」「PRGM-2」……の順番でディスプレイが変わっていき、内容確認ができます。

「PRGM-8」のあと、もう一度押すと通常受信状態になります。

不要なプログラムを消す場合

MONITOR ボタンを押して不要なプログラムを呼び出します。次に、CANCEL ボタンを押して削除します。この時、プリセット・チャンネル・ディスプレイ部には「--」が表示され、周波数ディスプレイ部には「---」が表示されます。この表示は予約した内容が取り消されたことを示すものです。

番組録音は、取り消された番組を飛ばしながら進められます。

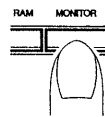
●番組の予約のしかた

番組の予約順序を決める

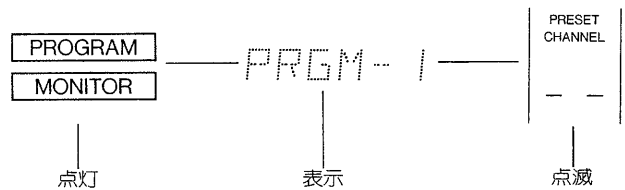
(例)

PRGM-1	プリセット チャンネル 番号	15
PRGM-2	プリセット チャンネル 番号	5
PRGM-3	プリセット チャンネル 番号	8
⋮	⋮	⋮
PRGM-8	プリセット チャンネル 番号	1

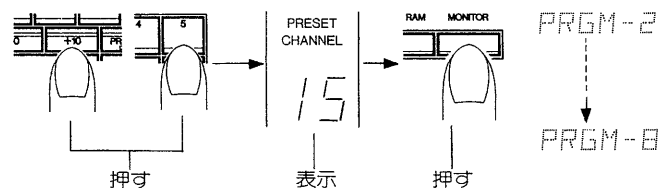
MONITOR ボタンを押す



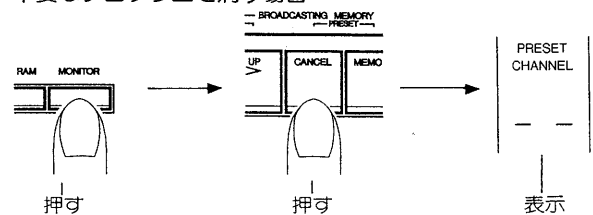
1.



2.



●不要なプログラムを消す場合



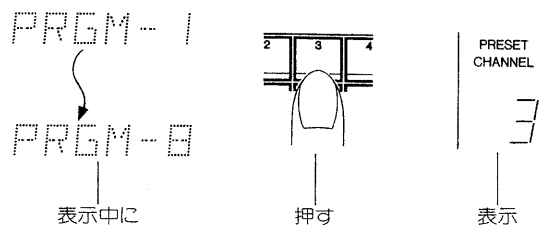
番組予約の一部を変更する場合

「PRGM-1」から「PRGM-8」までのいずれかが表示されている時に10キーでプリセット・チャンネル番号を入力すると、ディスプレイが変わって新たに入力されたプリセット・チャンネル番号を表示し、プログラムの内容も変化します。

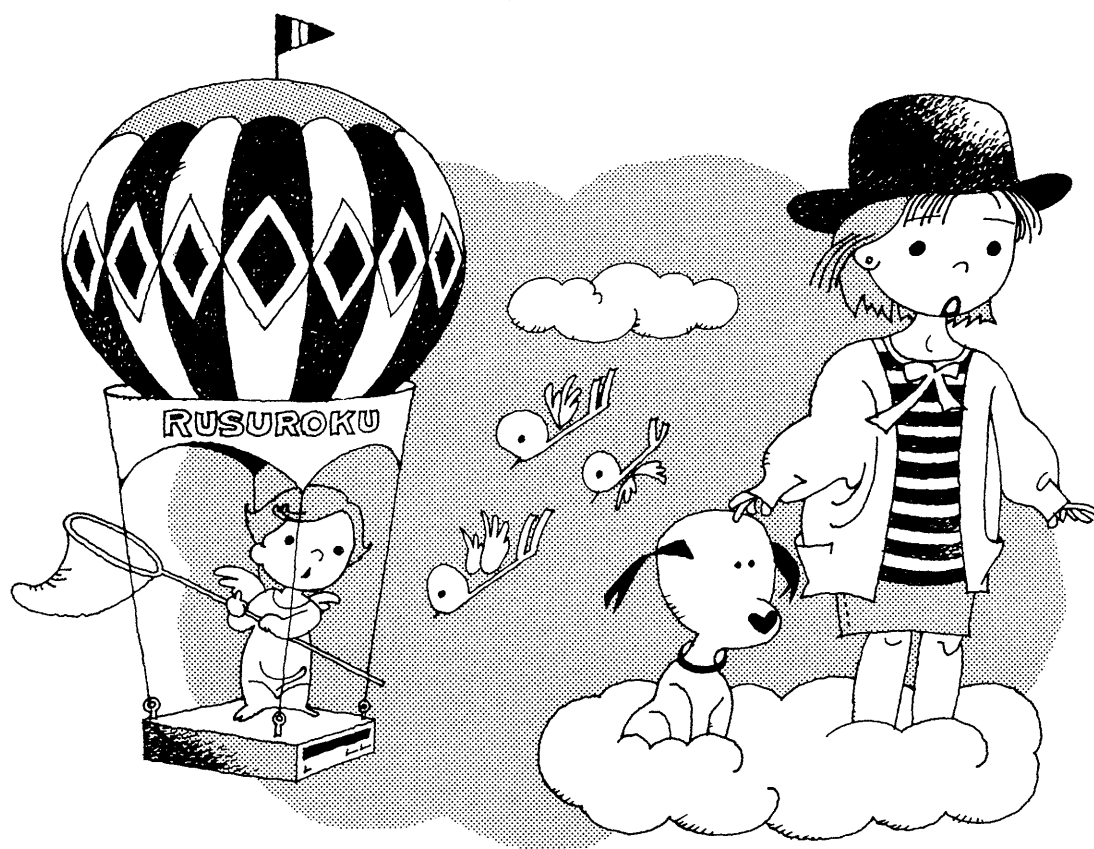
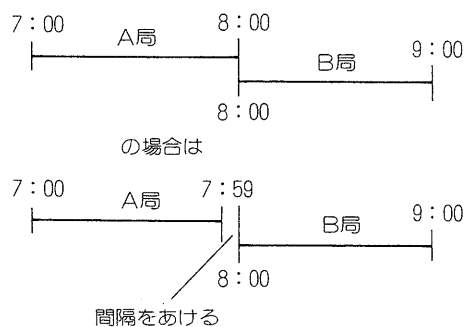
放送時間が連続する番組の予約方法

A 局を8時まで録音し、引き続き B 局を8時から録音はできません。この場合には、7時59分にタイマーが切れるようにセットし、8時に再びタイマーが ON するようにセットします。

● 番組予約の一部を変更する場合



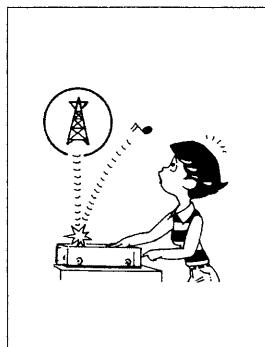
● 放送時間が連続する番組の予約方法



故障?と思う前に

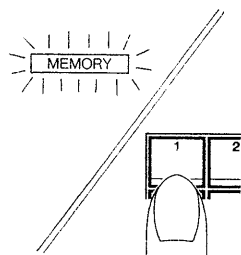
— おや? 故障かな? と思ったら……………

修理を依頼する前にちょっとお確かめください。—



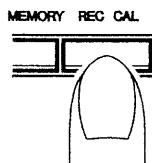
放送はいらない
(プリセットが呼び
出せない。)

プリセットチャンネルが
キャンセルされていま
せんか!



再度そのプリセット・チ
ャンネルに希望の放送を
メモリーしてください。

録音レベルをチェックす
る基準信号440Hzがでて
いませんか。

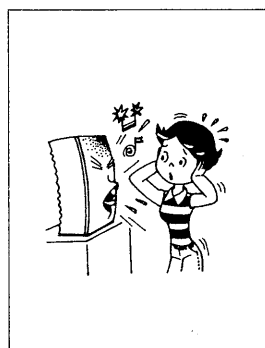


440Hzの基準信号が消
えるように、再度
REC CAL ボタンを
押してください。

ステレオ アンプの操作を
間違えていませんか。

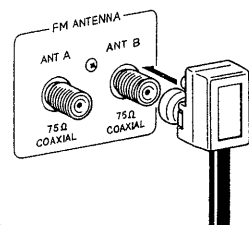


ステレオアンプの「取扱
説明書」をよく読みく
ださい。



雑音で聞き苦しい

アンテナがはずれていま
せんか!



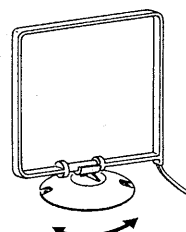
アンテナを確実に接続し
ます。

アンテナを束ねたまま床
などに放っていませんか。



もっとも受信状態のよい
方向にびーんと張ります。

ループ・アンテナがパネル
に近づいていませんか。

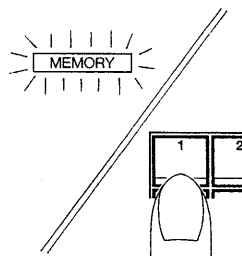


ループ・アンテナをパネ
ルから離し、向きも変え
ます。

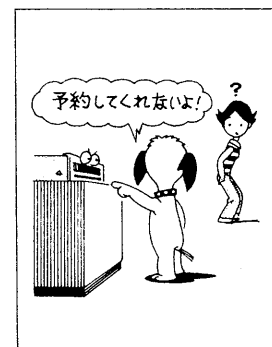


放送がプリセットでき
ない

メモリーインジケータ
ーは点灯していますか。

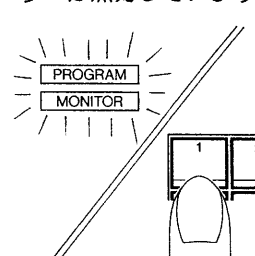


メモリーインジケータ
ーが点灯している間にプリ
セット・10 キーを押しま
す。



番組予約ができない。

プログラムインジケータ
ーとモニターインジケータ
ーが点灯していますか。



インジケータが点灯し
ている間に、番組予約を
おこないます。

仕様

寸法図

● FM チューナー部

受信周波数	76 MHz ~ 90 MHz
実用感度	0.9 μ V/75 Ω (10.3 dBf)
50 dB クワイティンク感度	モノラル 1.5 μ V/75 Ω (14.8 dBf)
	ステレオ 22 μ V/75 Ω (38.1 dBf)
S/N (85dBf 入力時)	モノラル 99dB (IHF - A)
	ステレオ 91dB (IHF - A)
全高調波歪率	モノラル 0.005% (WIDE at 1 kHz)
	ステレオ 0.009% (WIDE at 1 kHz)
キャプチャーレシオ	1.0 dB
実効選択度	NARROW 75 dB (IHF) $\pm$ 400 kHz
イメージ妨害比	120 dB
IF 妨害比	120 dB
AM 抑圧比	65 dB
ステレオ セパレーション	65 dB (WIDE at 1 kHz)
周波数特性	20 Hz ~ 15 kHz $\pm$ 0.3 dB
アンテナ入力インピーダンス	75 Ω 不平衡型 (2 系統切り替え方式)
出力信号レベル/出力インピーダンス	600 mV/1.4 k Ω
REC CAL 出力レベル	FM の約50%変調相当 (約440Hz)

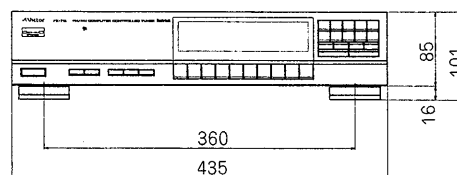
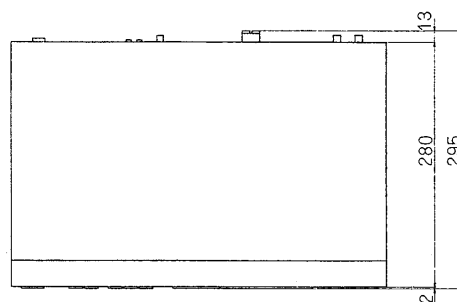
● AM チューナー部

受信周波数	522 kHz ~ 1,629 kHz
実用感度	250 μ V/m (ループアンテナ)
全高調波歪率	0.3 %
S/N	52 dB
選択度	60 dB ($\pm$ 9 kHz)
イメージ妨害比	40 dB
IF 妨害比	60 dB
出力信号レベル/出力インピーダンス	200 mV/1.4 k Ω (30 %変調時)

●電源部・その他

電源電圧	AC 100 V (50 Hz、60 Hz 両用)
消費電力	POWER ON 時 14W
	($\oplus$ 電気用品取締法基準)
	スタンバイ時 4 W
重量	5.2 kg (本体)

付属品	シグナル コード (1.2m) 1
	リモートワイヤー 1
	ループ・アンテナ 1
	ループ・スタンド 1
	簡易型フィーダ・アンテナ 1
	アンテナ変換器 1
	同軸プラグ 1
	取扱説明書 1
	保証書 1
	サービス窓口案内 1



(注)・寸法の単位は mm です。

・上記の寸法は設計寸法ですので、ラック (棚) などに設置する場合は、若干の余裕を考慮してください。

(注)・FM 時における各種の数値は、IHF 測定法によって測定したものです。

・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。



日本ビクター株式会社

オーディオ事業部
大和工場

所在地 〒242 神奈川県大和市下鶴間1644番地 電話 (0462) 74-2121 (代表)
お問合せ先 ビクターインフォメーションセンター 電話 (03) 580-2861
〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号 (霞山ビル)